

家畜防疫対策の取組状況について

平成 30 年 9 月に国内で 26 年ぶりに発生した豚熱、アフリカ豚熱や口蹄疫（FMD）の近隣諸国での発生拡大など、特定家畜伝染病の国内での発生リスクは依然として高い状況が続いています。

例年実施している家畜防疫対策の取組については、コロナウイルス感染症の拡大に伴い、一部会議の延期などの影響を受けてはいますが、7 月 17 日に県関係機関を対象とした担当者会議を開催し、情報共有を図るとともに、当所職員や家畜防疫員の技能向上と連携強化を図るため、7 月 1 日には所内研修、7 月 22 日には家畜防疫員研修を開催し、防疫体制や各自の役割を再確認するとともに、鶏の採材等の実務研修も実施しました。

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生リスクが高まる季節に向けて、9 月 4 日に開催された東近江地域の対策会議を皮切りに、各地域における対策会議や研修会の開催が実施される予定です。また、10 月には、HPAI を対象とした、防疫作業従事者の集合場所や、発生農場前のテント基地における作業動線の確認や車両消毒の実施等を行う実務演習を開催する予定です。

この冬に向けて、コロナウイルス感染症の発生状況がどうなるかは不透明ですが、感染拡大の防止に努めながら、これまで継続してきた家畜防疫に対する取組を途切れさせないよう、防疫演習や対策会議等の開催に取り組んでいく予定です。（藤井）

畜産技術振興センターで和牛子牛販売会が開催されました

令和 2 年 10 月 7 日、キャトル・ステーション（CS）で哺育・育成された和牛子牛の販売会が畜産技術振興センター内で開催されました。CS 生産子牛頭数の増加に伴い、今回初めて畜技セで販売会を開催することになった次第です。当日は 12 時から購買者の下見、13 時半からレンタルした自動電子せりシステムを使ったせり売りが開始されました。

去勢 20 頭、雌 11 頭の計 31 頭が出品され、平均日齢は去勢 282 日、雌 271 日、平均体重は去勢 295 kg、雌 242 kg で、全体的に発育や体格のバランスの良い子牛も多くみられました。せりの結果、1 頭あたりの平均取引価格（税込）は、去勢 565,510 円、雌 507,000 円でした。

今回、畜産技術センターでは初めての取組でしたが、無事販売会を終え、今後も定期的な販売会の開催が予定されています。



係留中の出品牛

（加藤）